

週刊 京都民報

2021年
11月14日(日)

第3006号

京都民報社 発行所：〒604-0003 京都市中京区衣櫛通美川上ル吉田ビル ☎075(256)0901 / 075(223)2033 〓kyoto-minpo@nifty.com 京都民報Web①www.kyoto-minpo.net

350年遠忌で慰霊法要

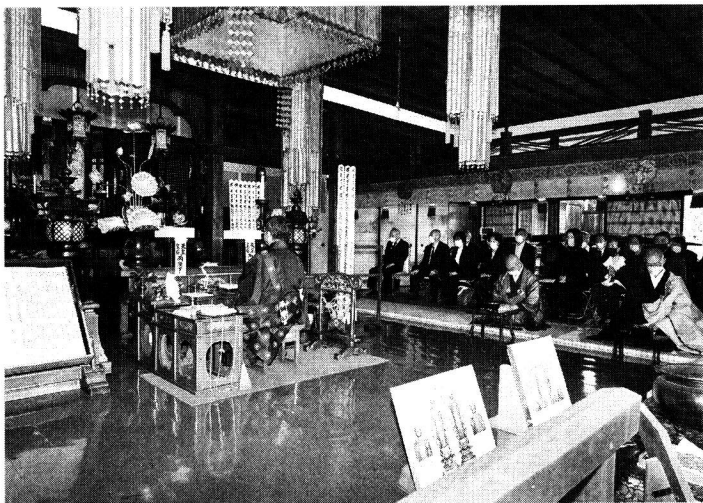
和算書『塵劫記』著者・吉田光由

右京区・二尊院で顕彰団体、子孫ら

「和算」の創始者で、江

日本で発展した数学
戸部にベストセラーと
なった和算書『塵劫記』
(1627年)の著者・
吉田光由(1598—
1672)の350年
遠忌慰霊法要が7日、

菩提寺の二尊院(京都
市右京区)本堂で行わ
れ、遺族や和算関係者
ら約40人が参列しまし
た。主催は吉田・角倉
一族会、嵐山大悲閣を



二尊院で行われた慰霊法要

護る会、吉田光由悠久
会・IKI。

新しく作られた吉田
光由の位牌や珠の部分
が真珠で出来たソロバ
ンがまつられるなか、
二尊院の羽生田実隆住
職が、吉田光由顕彰の
ために尽力した個人・
団体や取り組みなどを
書いた表白を読み上げ、
「阿弥陀経」を読経。羽
生田光昭副住職、角倉
了以ゆかりの大悲閣干
光寺の大林道忠住職、
『塵劫記』ゆかりの天龍
寺塔頭臨川寺の阪上宗
英副住職が脇僧を勤め
ました。

参列者は境内にある
吉田光由の墓前でも焼
香をしました。

別室で行われた懇談
会では、了以の子孫で